



「在宅」をフィールドとする 心不全療養指導士の グループが誕生!

編集室

一般社団法人日本循環器学会では、2021年度より心不全療養指導士(CHFE; Certified Heart Failure Educator)認定制度を開始しています。本制度は、心不全の発症や重症化の予防のための療養指導を担う医療専門職の技術・資質の向上を狙った試みです。超高齢社会で急増する心不全のケアの量と質を底上げが期待されています。認定制度の対象となる職種は、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技士、公認心理師、歯科衛生士、社会福祉士。2023年11月時点で5199人の心不全療養指導士が全国各地で活躍しています。

その中、2023年3月に、在宅領域を足場とする心不全療養指導士のグループ「CHFEホームケアネットワーク」が発足しました。コアメンバーを務めるのは、白川大樹さん(訪問看護ステーション立花畑、兵庫県)、東田雪絵さん(訪問看護キープオン守山、愛知県)、高取幸恵さん(ゆみの訪問看護ステーション、東京都)、植村優衣さん(訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ、大阪府)、藤井由美さん(訪問看護ステーション芦田鶴、福岡県)、瀧本晶子さん(北見地域訪問看護ステーション、北海道)の6人の看護師です。

「地域の実践を知りたい!」

これまでも「東海」「北海道」といった地区単位で心不全療養指導士を束ねるグループは存在していました。しかし、全国的に見て在宅領域で働く心不全療養指導士は少なく、訪問看護ステーションに務める心不全療養指導士に限って見ても、2023年9月の時点で107人と、総数からするとかなりの少数派。そのため、在宅実践を共有する機会は限られていました。

そこで在宅領域の実践者のつながりを作ろうと生まれたのが、CHFEホームケアネットワークです。コアメンバーの白川さんと高取さんが横のつながりを作ろうと決意し、全国の訪問看護ステーションに務める心不全療養指導士たちに電話で直接呼びかけ、組織化へと踏み出しました。地域でつながりを求めているのは訪問看護ステーション勤務の看護師だけでなく、薬局

やクリニックに務める医療職も同様であると分かったことから、その後、参加条件は「訪問看護ステーション勤務の心不全療養指導士」から「地域・在宅をフィールドにしている心不全療養指導士」へと拡充され、現在、57人のメンバーが集まっています。

暮らしに寄り添ったケアを目指して

CHFEホームケアネットワークの活動目的は次の5つ。①心不全パンデミックを地域から抑えるため、②どこの地域でも格差なく心不全患者、家族が在宅で過ごせるため、③地域の異なる文化や住民の特性、多様化する心不全に対応するため、④各地域の心不全予防への取り組みを共有し、自身の地域で活かすため、⑤地域で心不全指導に参加したいと思っている仲間を育成するため、です。

在宅や地域では高齢の心不全患者と多く出会います。高齢の心不全患者に特徴的なのは多疾患併存状態であり、フレイルであることです。若年者にとって「日常的な動き」も、高齢の心不全患者にとっては「増悪にかかわる因子」となりかねず、高齢患者への療養指導にはその人の生活の細部の動きにまで目を配る必要があります。

生活の営みを見るという点では、「地域性を踏まえることが必要」と強調するのが白川さんです。「例えば、同じ兵庫県内であっても、北部の山間地域では稲刈りの時期に心不全のコントロールが難しくなると聞いた。南部の都市型のステーションに務める私にとって、『稲刈り』が増悪の要因になるのは、理屈として分かるけれど、経験にはない」。つまり、ひと口に「心不全増悪の生活因子を把握することが大切」と言っても、それぞれの地域に存在する食習慣や行動習慣などの暮らし方、文化に根ざした視点が必要だということです。CHFEホームケアネットワークでは、全国各地の在宅・地域で働く心不全療養指導士がつながることで、心不全ケアの多様性に出会い直し、掘り下げ、共有するのだと白川さんは言います。

*

今後、CHFEホームケアネットワークでは、在宅・地域で働く心不全療養指導士をさらに集め、同一地域の緩やかなつながりも作っていくとのこと。オンラインイベントの開催も計画中で、心不全療養指導士だけでなく、心不全療養指導士を取得しようと検討中の人も参加対象に含まれるとのことなので、ご興味のある方は同ネットワークのInstagramアカウント(右記、二次元バーコード)をご覧ください。

